

百日咳の届出状況について（5月8日現在）

長野保健所管内における百日咳患者の届出数は、過去5年で1例のみの低い水準でしたが、4月11日から5月8日までの間に15例の届出があり、県内及び国内でも患者が増加しております。

咳などの症状がある方は早めに医療機関を受診されるとともに、マスクをつけ、咳エチケットを守りましょう。

○百日咳ってどんな病気？

- 百日咳は、百日咳菌による感染症です。
- 咳やくしゃみに含まれる菌によって感染します（飛沫感染）。
- 激しい咳をともなう病気で、1歳以下の乳児、特に生後6か月以下の子供では無呼吸発作など、重症化することがあります。（死亡例もあります。）
- 年長児や成人では、比較的軽い症状で経過することも多く、受診・診断が遅れ、感染源となることがあります。乳児の周りでは特に注意が必要です。
- 治療には抗生剤の投与がおこなわれます。

○症状は？

- 普通のかぜ症状で始まり、次第に咳の回数が増えて程度も激しくなります。
- その後、特徴のある発作性けいれん性の咳（痙咳）となります。また咳とともに嘔吐を伴うこともあります。
- 2～3週間で激しい発作は次第に治まりますが、まれに忘れた頃に発作性の咳が出ることがあります。

○予防するには？

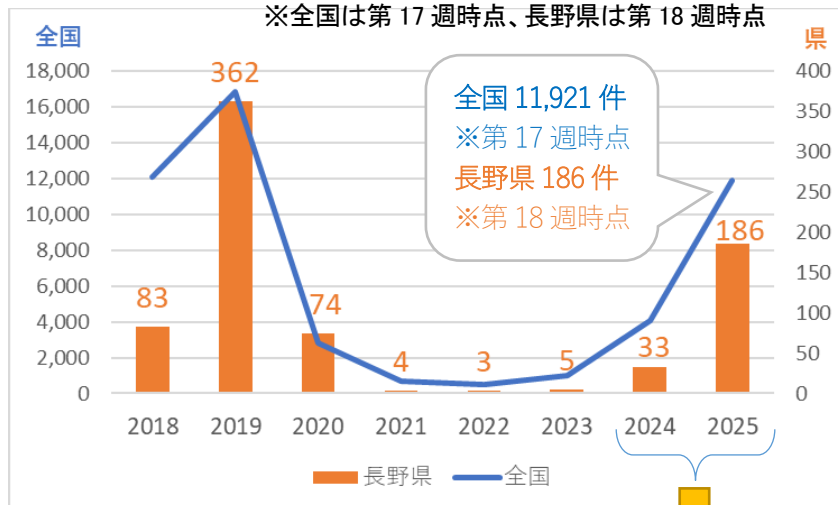
- 手洗い、マスクの着用、咳エチケット等の基本的な感染対策が重要です。
- 百日咳の予防には**予防接種**（5種混合ワクチン等）が有効です。
- 生後2か月から予防接種法に基づく定期接種を受けることができるため、できるだけ早く、計画的に接種しましょう。



〇百日咳の届出数の推移

長野県及び全国の百日咳報告数(2018年～2025年※)

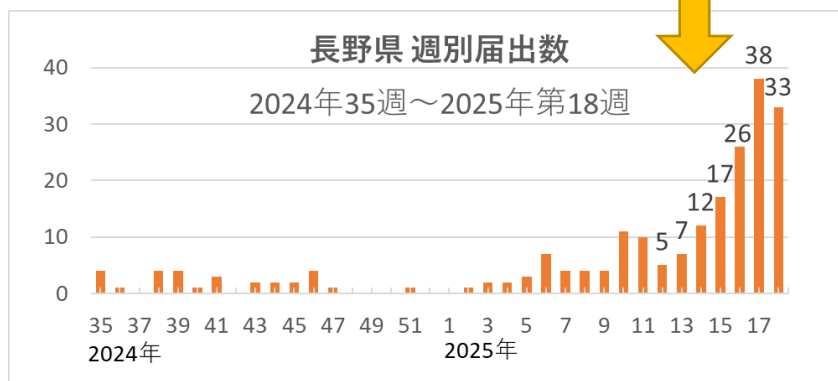
※全国は第17週時点、長野県は第18週時点



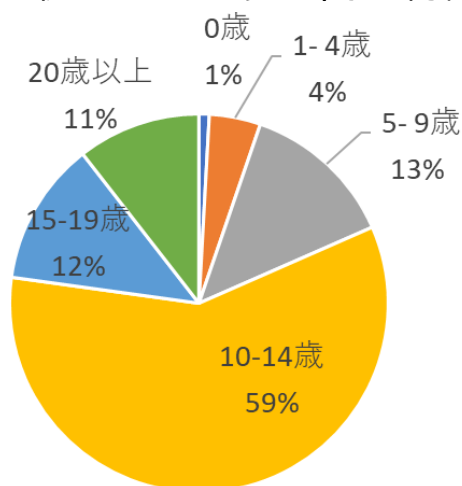
■ 百日咳は2018年から全数把握対象となり、全国と長野県ともに、2019年をピークとし、その後は、新型コロナウイルス感染症の流行もあり、報告数が激減していました。

■ 県内の2024年の届出数は33件でしたが、2025年は第18週時点で186件と、すでに昨年の5倍以上に増加しています。特に2025年第14週から急増しており、直近の第18週(4月28日～5月4日)の報告数は、33例でした。

(速報のため、今後の集計で変更が生じることがあります。)



〇最近の百日咳症例の特徴



■ 長野県内で2025年第1週から16週までに報告のあった症例の年代は、10～14歳が全体の59%と最も多く、次いで5～9歳が13%、15～19歳が12%でした。乳児期の定期接種の効果の持続は5～10年程度と言われているので、基礎免疫の低下が原因の一つと推測されます。

■ 学校などの集団生活の場で発生しやすいため、今後、さらなる増加が懸念されます。

長野県内の百日咳症例 年齢分布

(2025年第1週～第16週、n=114)

参考資料

- 長野県感染症情報（長野県ホームページ）

<https://www.pref.nagano.lg.jp/shippei-kansen/kenko/kenko/kansensho/joho/index.html>

- 百日咳の発生状況について（国立健康危機管理研究機構 感染症情報提供サイト）

https://id-info.jih.go.jp/diseases/ha/pertussis/O20/250422_JIHS_pertussis.pdf